
よりどり！

せか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

よりどり！

【著者名】

Z4509D

【作者名】

せか

【あらすじ】

とにかく彼女が欲しい「俺」が主人公だと思います。俺と女の子の関係を描いたコメディのつもりです。よければ、ですが読んでくださるとうれしいです。

第一話 僕×スズメ？（一）

名前、はなのこな花野一かもめ。

年、今年で16。

そんどここ一番大切なんだけど、欲しいもの、彼女。

できれば美人。

といひことでその唯一の条件（僕つてば謙虚）に一番当てはまる人（つまりクラスの中で一番の美人つてこと）に今からアタックしようと思つてゐるんで、応援よろしく。

そうそう、名前、そのアタックする人の名前、すずめのかよい鈴芽乃香宵だから。

「すーすつ」

まずはこうやつて彼女をあだ名で呼んでみる。うん、なんか親しい感じするよね。

「あ、花野一君、おはよう」

しかしすずはガードが堅じつていうかちょっともじもじ系のもの静かな女の子なんでいつもいつもやつて俺のことを苗字で呼ぶ。

しかししかし、いつもやつて毎日喋りかけてるわけであつて少しづつ彼女も俺に打ち解けてくるはず。

「ほらすすめ、Jの前欲しがつてたCDあつたじやん？」

「ハハハ、わたくしは、やがて、ここに来る。ふふん、可
愛いやつだ。

その期待に応えるべく、俺は大げさにCDを取り出した。

「じゃ、じゃん。俺買つたから、ここへ来て来たよん。」

えええええ！ わありかど二 花野一君

そんでも喜はれるところがいいで嬉しいな。葵いのちれ

しゃで1年間の言葉でも書いてみますか

上田遣い（いや男でも効くよ、上田遣い）でほんとおじり）して声もいつもよつと低めに。

「すすじかねわねわ」んないといぢらないよ?」

これで惚れない女はないって

まあ、すすむの例外ではないわけだ。

第一話 僕×スズメ？（2）とこつかオチ

朝のやつとりの後。

もう87%俺に惚れているだろうと確信しながら授業を受けると何故かこれがもう楽しい楽しい。いわゆる恋の力ってやつさ。

あ、ちなみに87%つてのは謙遜込みだから。

先生の話のあいだにすずに向けてサインを送つてみたりして。

ぱり

それに気付いたすずはふふっと笑つて控えめに手を振る。

やべ、超いいかんじなんすけど。

もつこれ咲由じてもこへね？

そんな幸せな幸せな1時間田が終わり、さあてすずに話しかけにいくかつて席を立つたとき。

むむひ。

なんとすずは他の女子共と一緒に席を立つてどこかこいつてしまつた。

追わねばっ。あ、いや、別にストーキングとかじゃないですかから。

すず（と女子共）の入つていったのは図書室だった。

なんと…すずに似合つ場所ランキンギー位の図書館とは…
ちなみに2位は保健室（

女子共でかしたな！

すぐ入つたらつけてきたとか怪しまれるからじまし図書室のドア
前で身を潜める。

すぬとせやりせやりと女達の騒ぐ声が聞こえてきた。

図書室をなんだと思つてると思つて、その声のなかにすずの
声が混じつてないかと耳を澄ます。

すると……

「ね、すずつ。花野一樹ひこせ」

おお。俺の話題。

「あー、私も思った。絶対あれすずのこと好きだよね
ん？」

「でもさ、正直あれじゃない？ 休み時間毎に喋りかけてくれとかさ」

んんん？

「えつなにそれ。キモつ」

なんか俺、言われてないか？

「ねーねー、すず。正直どつなの、あいつ

と、ついこはすすこまで話題を振った。

すると、しづかじ図書室が静寂に包まれ、その後、控えめな感じの声が響いた。

「うむうむ……迷惑……かも」

頭が真っ白になつた。

なんだそれ。

急展開に頭がついてかないんですけど。

けど一つだけこえる」とは

いつ
てえ、
俺

第三話 僕×ツバメ？（一）

くわづ。騙された。

なこが「すす」だ。あんなおとなしそうな顔して！

もう清楚系はやめだ。裏に何があるか分かったもんじゃない。

といふことで僕はまた好きな子探しを始めたことにした。ただし
清楚系はなし。

教室を見回す。「うん、いい女いないぜ。

教室外で探そうと、立ち上がったそのとき。

「おっ。かも、お出かけですか？」

驚いて振り向くと、そこにはショートカットのヘアを茶髪に染め、

超短いスカートを履いた

軽そうな女子が立っていた。

「おっ、錦糸。なに？」

「うふ？ カモがどこ行くのかなーって」

さう言つてあははと笑つ。思ひこやつだ。

「ま、いいや。こつてひつやーこ

ふりふつ手を振る鍔芽に

「んん。特にいいのも」

と叫び、不思議そつと「ああ?」と叫んで、も、いこやと笑つた。

話しこの間に鍔芽の顔を眺める。

あれ……なんか」「見ると、鍔芽って可憐くね?

あははと笑うときにさみ出す歯は白くて健康的。運動系の部活に入ってるだけあって肌は綺麗な小麦色。

やっぱ。鍔芽がすんごいキラつて見えるんだけど。

「あいや? も、なんかにやけてんじやない?」

と顔を覗き込んでくる。顔、顔が近い。

「すーナーべー」

とこうかとこうか、こんな至近距離に近づいてくるひとは、俺のことは嫌いじゃないんだよな? とこうかむしり。……俺のひと好きだつたり?

えー、まじでまじで。わざわざすきだよ。

やっぱ清楚系よつ活発系だよな。

うん。
惚れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4509d/>

よりどり！

2011年1月26日15時38分発行